

まもろう！ぼくのいのち、わたしのいのち



千葉県 九十九里町立片貝幼稚園

九十九里町は、九十九里平野のほぼ中央に位置し、いわし漁とともに栄え、水産加工業は、町の産業を支える大きな柱です。



東日本大震災の時、片貝漁港一帯が津波の被害を受けました。

本園は、海岸より1.3km、海拔1.4m。
地震による津波が心配されます。



園児数	86名
(内訳)	
5才児	34名
4才児	30名
3才児	22名
職員	7名

2012年度チャレンジプラン入門枠で防災教育について取り組みを始め、2013年度引き続き園児の防災教育について考えました。

2012年度(平成24年)の活動

- 年齢ごとに防災計画を立てる
 - ・各学年の防災計画の見直し作成
 - ・園内・園外の危険箇所の確認
 - ・職員の共通理解
- 防災訓練の実施と教材による指導
 - ・今までの形式的な訓練の見直し
 - ・園児・保護者への意識付け
 - ・地域の方との防災訓練



津波を想定した、本園と3つの保育所との合同避難訓練



九十九里中学校での防災公開授業で、5才児が公開保育を行ない中学生といっしょに屋上への避難を経験する



親子防災教室



保護者、未就園の子どもたちにも防災に関心をもってもらおう。



千葉県立東金特別支援学校の生徒の皆さんに来園いただき「あたりまえ防災」を教えてくださいました。



千葉県東金青年の家『春のフェスティバル』にて本園防災教育の取り組みをポスターセッションにて掲示・DVDの放映



近隣地域の方に、本園の防災教育の取り組みについて知ってもらうとともに、地域の方々にも各自防災に関心をもってもらう機会になった。

2013年度(平成25年)の活動計画

- 平成24年の活動の反省・課題について
 - ・24年度の活動記録を見直し、それぞれの活動時の反省、課題から改善策について考える。
 - ・職員の役割分担について見直す
- 各年齢ごとの発達段階を踏まえ計画を立てる
 - ・各学年の計画や個々の発達を考慮し、年齢毎に詳細な計画を作る
 - ・個々への指導・援助について話し合う
- 日頃の保育と防災を関連付けて考える
 - ・「保育と防災」と分けて考えるのではなく「防災を意識した保育」という考え方で日常の保育をみていく

入園間もない新入園児の防災教育について

- ・災害はいつ起こるか分からない事を考えると、入園直後の対応について課題がある。
- ・登園を渋り泣いている子、園から逃げ出そうとする子・・・、いろいろな様子がみられる4月の防災教育について話し合い、出来ることを考え実施。



在園児に手本になってもらい、見学することから始めた。中には興味をもち、いっしょにだんご虫ポーズをする子もいた。

今年で3年目になる保育所との合同避難訓練(津波想定)



昨年度、職員が制作した防災の人形劇に、効果音をつけ、人形の改良や演じ方を工夫した。保育所の小さい子も興味を持って観ることが出来、防災に関心を持つ事が出来た。



アドバイザーの先生を招いて職員研修<2>

- 自分で自分の命を守る
- 家族の命を守る
- 地域の命を守る

- ※活動計画の見直し
- ※バザーでの防災コーナー
- ※親子で体力づくり
- ※園児の防災教材制作



7月13日(土)バザー・夕涼み会

- 例年PTA主催で行なわれるバザーで、今年は職員が防災コーナーを作る
 - ・本園の取り組みについてポスターを掲示し活動内容を見てもらう
 - ・防災カードを使った、的あてゲームコーナーを設け遊び感覚で内容を伝える
 - ・非常食を用意し作り方を見てもらったり、試食をしてもらう
 - ・消防署勤務の保護者にロープの結び方の指導をしてもらう
 - ・マイカードを作成し、配布する



防災カードを使った的あて



幼稚園児向けと小学生以上の
子で、的までの距離を調整



景品を用意し楽しんでもらう
マイカードも配布する

非常食の作り方実演・試食



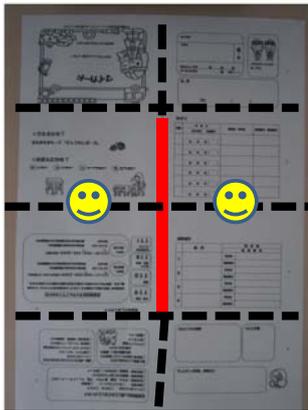
非常食のわかめご飯を、ラップでおにぎりにして配布、併せてマイカードの作り方を説明しながら配布

消防署勤務の保護者によるロープの結び方の講習



ほどけない結び方を教えていただき、鉄棒にも結んでみました

マイカードを制作



A3とA4のサイズに左の写真のように印刷し赤線の所に切り込みを入れ 😊 マークを両手でつまむようにして組み立てるとマイカードの出来上がり

11月13日(水)親子防災体操

プラス思考とマイナス思考で力の入り方が違います



講師 (株)タフジャパン
鎌田修広 氏



地震の揺れを感じたらだんご虫ポーズ、保護者は子どもをお腹の所に入れてかばう



着衣に火がついてしまった時、うずくまりゴロゴロと身体を床に押し付けます

負傷者ができました、みんなどうする？



すごい！

みんなで力を合わせれば大人も運べるよ...

煙がいっぱい、どうやって通る？



低い姿勢になって！

津波で避難した所からさらに安全な所に避難、早く避難するにはどうしたらいいかな？



自分で考えよう！

お家の方が抱っこしたり、ブリッジを作ってくれたよ！年長さんはジャンプできる場所もあったね！

防災を取入れ発表会

年少「おかし」



年中「3匹のこぶた」



- 年少はオペレッタの“おかし”を“おかしも”にアレンジ
- 年中は“3匹のこぶた”のおはなしの中に防災の動作を取入れる
- 年長は防災の約束事を織り交ぜ、オリジナルの劇を作る

成果と課題

・園児の防災に関する意識が高まりました。放送で園長の声が聞こえると静かにして話が聞けるようになり、気の早い子は、避難訓練だと思って机の下に隠れる姿がみられます。

・「もし今地震が起きたら...」どのように行動すべきか、いろいろな場面を考えて実践し、反省・問題点について職員で話し合いました。まだまだ課題が多く、よい解決策が見当たりませんが、繰り返すことでヒントを得られることもあるので、継続が大切だと思います。

・防災に関する活動を各年齢で取り入れ、運動会の競技種目にしたり、発表会で保護者の前で披露しました。制作や劇など友達と協力し、やり遂げたことで子ども達は達成感を味わえたとし、保護者や地域の方には、子どもたちの活動を通して防災への関心を深めてもらえたと思います。園での取組みについて保護者の理解も深まり、防災に関心を持つ家庭が増えてきました

・防災が一過性のもので終わることなく、日常生活の中に“当たり前”となるように指導する必要があると思います。いざという時に自分で判断して行動が出来る様に、年齢に応じた指導の重要性を痛感しています。保育者も日々の保育の中で常に防災を意識しながら指導していくことが大切だと思います。小さなことでも出来る事から一つずつ行っていこうと思います。

ご清聴ありがとうございました

